

## ◎ J A B E E 推進室

校長 水野 豊

### 1. 平成17年度運営目標・方針

JABEE プログラムの審査（生産工学プログラムと電子工学プログラムは本格審査、生物応用化学プログラムは中間審査）及び認定に向けて、取り組みを強化推進する。

### 2. 平成17年度実施計画

#### 2. 1 JABEE 審査の受審

[1] JABEE プログラムの審査（生産工学プログラムと電子工学プログラムは本格審査、生物応用化学プログラムは中間審査）を申込み、認定を目指す。

生産工学プログラム、システムデザイン工学プログラムは、JABEE 本格審査を受審し、生物応用化学プログラムは中間審査を受審した。

#### 2. 2 受審体制の確立と受審準備スケジュールの管理

[1] JABEE 推進チームに指示し、各プログラムごとの受審体制を確立する。

JABEE 受審体制について、各プログラム責任者より JABEE 推進室会議にて報告を受け、その体制について確認した。

[2] 各プログラムの受審準備スケジュールを把握し、進行状況をチェックする。

第1回の JABEE 推進室会議において、各プログラムの受審準備スケジュールを確認し、第2、3、4回の JABEE 推進室会議において受審準備状況について報告を受け、準備の遅れている事項については、適宜指示を出しながら受審に向けたスケジュール管理を行った。

[3] プログラム間の共通事項に関する事項を調整する。

各プログラムで作成している「履修の手引き」の内容について、調整を行った。また、全プログラムに関係する「他機関からの専攻科入学者への対応」、学校全体の「教育改善等実施の組織体制」と「JABEE プログラムの教育改善システム」の位置付け等について確認を行った。

#### 2. 3 自己点検書の作成・チェック

[1] JABEE 推進チームに対し必要な指示を行い、各プログラムの自己点検書の作成を統括する。

JABEE 推進室会議において、各プログラムの自己点検書作成の進捗状況を管理し、常に自己点検書作成の進捗状況を学科主任に報告させる等の自己点検書を提出期限までに完成させるために必要な指示を行った。

[2] 自己点検書のチェックをする。

各自己点検書を各プログラムの内部監査終了後に JABEE 推進室長に報告させたが、自己点検書の内部監査終了が遅れたために JABEE 推進室でチェックするには十分な時間がとれなかった。

## 2. 4 プログラム間およびプログラム構成教員間の連携推進

### [ 1 ] 全教員対象の JABEE 受審検討会（仮称）を開催する。

全教職員を対象に、「J A B E E 実地審査にあたって」と題した研修会を実施した。

## 2. 5 実地審査体制の整備

### [ 1 ] 実地審査のための、事務体制を強化する。

JABEE 実地審査のための資料整理、実地審査当日の対応等については、庶務課専門職員を窓口として各プログラム責任者と審査員との調整を行い、学内的には受審のためのスケジュールを立て万全を期した。

## 2. 6 審査後の指摘事項への対処

### [ 1 ] 各プログラムが審査で指摘された事項を把握し、改善の検討を指示する。

各プログラムの受審状況報告と今後の対応方針について、各プログラム責任者から JABEE 推進室会議において報告を受け、その対応策について審議し、各プログラムに PDCA 計画の策定を指示した。

### [ 2 ] プログラム間の共通する指摘事項については、各種委員会に改善の検討を依頼する。

プログラム間に共通する授業成績評価方法の改善については、教務委員会、専攻科教育委員会に検討を依頼し、専攻科生への情報伝達手段の改善等への対応を専攻科教育委員会へ依頼した。また、JABEE 推進室を継続的なプログラムの改善を促進するための機関として位置づけることを確認した。

また、JABEE 推進室設置要項を定め、各プログラムごとの教育的改善委員会の基に①学習・教育目標検討委員会、②カリキュラム・シラバス検討委員会、③達成度評価委員会の3委員会を設け、継続的な改善を図れる体制をとった。

## 総括的な評価と課題

- ・ 予定どおり生産工学プログラム及びシステムデザイン工学プログラムが受審し、生物応用化学プログラムの中間審査を受審できたことは、評価できる。
- ・ 受審に向けた推進体制から継続的改善のための推進体制に移行する必要があることから、J A B E E 推進室設置要項を整備した。今後は、PDCAサイクルの確立が課題である。